

# 働く者のコスト意識

2007.05.25 T.Y

## 1. まえがき

企業の発展には、すべての従業員が「コスト意識」を以て活動することが不可欠である。「個々人が常日ごろ抱く意識」が企業業績に与える影響は非常に大きい。以下に、企業に働く者が常に意識しておかなければならない基本行動について述べる。

## 2. 職員としての認識

### (1) 組織の一員としての意識

なんとしても企業の一員として「企業利益」に合う行動が求められる。組織をより有効に活動させるための周りへの気遣い・知り得た知識を共有化するための速やかなる情報の開示が不可避であり、情報をいち早く、報告・連絡相談することが大事である。

ひとに与えてこそ  
ひとから与えられる

ケチの情報音痴

### (2) 管理者としての意識

企業の発展に、「チームリーダーの適切な行動」が欠かせない。リーダーには所轄の部署がより有効に活動出来るようにスタッフを導いていく義務がある。これを実現するには部署全員の協力が不可欠であり、そのためには、スタッフに尊敬され慕われなければならないし、コミュニケーションを欠かさぬように心掛けていくことが肝要である。

団体競技のキャプテンたれ

### (3) 経営者としての意識

職員として適切かつ有効な行動を選択するために、収集した情報をもとに、社会情勢・会社の置かれている状況を的確に把握し、企業発展のために適うと思うことを積極的に提案していく。

誰もが社長である

## 3. 目標に向けた具体的活動

職場における活動目標を具体的にうち立てて、これに向かって努力する。また、ときに活動の経緯を振り返り、反省とともに目標を再構築・再挑戦していくことが望まれる。

### (1) 職場環境の構築（道具と心）

ハードなものとして、快適な室内環境・機能的ツールのストック・有能な人材の確保など、またソフトな面では情報入手活用手段の構築・互助精神の構築など考えられるが、いずれも「会社の経営方針」・「身の丈」に適ったものでなければ実現は難しい。

#### 規律の遵守と改善

企業には皆で取り交した規律があるが、これとても時のニーズに適うものに改善し、「働きやすい職場づくり」を模索することも怠ってはならない。

#### —— 7つの基本動作 ——

- ・ あいさつが示す人柄（先手で明るくハッキリと表現）
- ・ 返事は好意のパロメーター（打てば響く「ハイ！」）
- ・ 気づいたことは即行即止（間髪入れずに実行に移す）
- ・ 始業前5分は心の整理（一日の業務を見据えて臨む）
- ・ 歩く姿勢は気力の現れ（背筋を伸ばして大股で歩く）
- ・ 職場はルールを守る心から（以て連帯感を育成する）
- ・ 物の整理は心の整理（感謝を込めて、あと片付け）

#### 洞察力に基づいた決断

回りの意見を集約したうえで、改善効果を推し量り、機を逃さず行動に移すことも必要である。

（安全パイばかりでは魅力がない）

あえて火中の栗を拾う

#### 職場内の交流

相互理解・情報の交換を図り、業務の融通を図る。

酒はコミュニケーションの1ツール

(2) 自己啓発

話し方、聞き方、書き方、読み方

時間が勝負の世にあって、情報伝達手段を効率的に操ることの重要性は増している。「話し方」を例に取れば、話が長いと時間をロスするばかりでなく真意が伝わり難くなる。また「書き方」では、字・文・書物（論文・報告書）のそれぞれに、上手な形・空間、主語述語の適切配置、起承転結が求められる。

話が長いと真意が伝わらない

専門知識の蓄え

必要とする知識を意識的に修得するとともに、秩序だった整理を行う。

論文発表がいちばんの整理法

公的資格の取得

自己啓発の尺度とする。レースに勝ち抜いてこそ、ひとに認められ、ひとに対する思いやりが生まれる。

収支バランス

会議・電話・話・作文などすべての行動において、そこに生ずるコストを意識しなければならない。「会議」を例に取れば、主催者は会議の収支を考えて開催の立案・出席者の選定・議事の進行を図るとともに「人件費などの出費」と「会議で得られた収穫」を比較する意識を持たなければならない。

—— タクシードライバーたれ ——

- ・ コスト意識を持つこと  
己の今日一日一ヶ月の稼ぎを知る。
- ・ 運転免許証を持つこと  
業務に不可欠な公的資格を有する。
- ・ 運転マナーを守ること  
安全と顧客への気遣いを怠らない。
- ・ 客を拾う努力をすること  
客（仕事）を取り込む努力をする。
- ・ 体調維持に努めること  
明日の体調を気遣い、暴飲を慎む。

(3) 後輩との連携

自分の考えを後輩に伝え、後輩の意見をよく聞き、より良い道を探り続けることが不可欠である。その手段（心構え）として、次なるものがある。共通認識の構築 気遣い 辛苦の分配 親身になって話す（オープンマインド）。また、専門知識の伝承に心掛ける。

与えるは受けるよりも幸せなり

(4) 改革・革新

近年の技術革新が激しい中、またグローバル化の中、企業・職場を取巻く環境は刻々と変わっていく。この変化するニーズに応えられるよう変革を遂げていくことが肝要である。常に工夫することを心がけ、新しいものの発見に気を配ることを怠ってはならない。

へそ曲がりの大発見

ニュートンの見たもの

4. なぜ共産体制は崩壊したか？

上から与えられた業務を機械的にこなすのでは、仕事に面白みがない。自分がどれほどの時間をかけていかほど売り上げたのかを知ることが大事。これがコスト意識というもので、これのない共産体制国では、労働の喜びが半減し、生産性が低下して、システムの崩壊を招いた。今後我が社には、各自が己の会社の収支を意識しコスト縮減に寄与すること、また会社発展を展望し夢抱くことが求められている。

5. あとがき

企業・職場によってそこに求められる能力は異なろう。しかしどこであろうと共通して言えるのは「コスト意識」の重要さであり、それが日常の行動に求められる。

具体的には、話のまとめ方や会議の進め方、業務姿勢などに現れる。

「コスト意識」を手放さない中で、より広い範囲への気配り、より広い範囲を知ることが期待する。